



### 12月定例会議会（補正予算、条例改定）ご報告（12月8日、22日）

#### ● 令和4(2022)年度一般会計補正予算

補正額：27.4億円増額

補正後の総額：約1,701.2億円



#### ■ 公共施設の光熱費高騰分：約4,300万円

原油価格高騰による光熱水費の不足見込み

#### ■ 防犯灯電気料金高騰分：660万円

防犯灯にかかる電気料金不足見込み

#### ■ ふるさと寄附金推進事業経費：約1.0億円

ふるさと寄附金の増加見込みに伴う返礼品経費等の増額補正

- ・「腸内フローラ検査キット」が大反響
- ・パナソニックパンスーズのプレー体験を追加

#### ■ 予防接種実施経費：約1.8億円

高齢者インフルエンザ予防接種の自己負担分の助成に対応した接種率増加に伴う増額

#### ■ 人件費補正：約1.5億円

人事院勧告を踏まえた人件費補正

#### ■ 出産・子育て応援事業経費：約3.8億円

国の総合経済対策「出産・子育て応援事業」

- ・妊娠届出時：妊婦に5万円相当を支給
- ・出生届出後：新生児1人当たり5万円相当を支給

#### ● 条例の一部改正

#### ■ 枚方市子どもの医療費の助成に関する条例の一部改正について

対象者の年齢を15歳から18歳へ拡大（令和5(2023)年8月～）

#### ■ 債務負担行為補正

「債務負担行為」とは、契約等で発生する債務の負担を設定する行為。事業が複数年度にわたる場合、債務負担行為を利用するケースが増えています。

#### ■ SNS相談事業：

[令和4～9年度] 限度額：2,700万円

ICTを活用し、子ども自らがSOSを出し、そのサインを見逃さない仕組みづくり



#### ■ 新型コロナウイルス感染症保健所対応関連経費

[令和4～5年度] 限度額：約11.7億円



ばんしょうの視点

引き際を意識した今後のコロナ対応を

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが変われば、本市の対応も変更を余儀なくされる。現在のサービスはどこかで縮小していくことは必然であり、来年度分の契約はその点を考慮して進めるべきです。

ばんしょう 厚労省では感染症法上の位置付け見直しの検討がされているが？

市答弁 検討が始められることは認識している。

新型コロナウイルス感染者が令和5年4月からも同様の支援が受けられることができるよう、契約手続きを要する事業の予算の確保をお願いしたい。

#### ■ 御殿山小倉線道路整備事業：

[令和4～6年度] 限度額：10.0億円

令和5年(2023年)度までに開通を目指す



整備工事が進む御殿山小倉線（写真は浄水場側 12月10日撮影）

#### ■ 枚方市都市公園条例及び枚方市附属機関条例の一部を改正する条例の一部改正について

野球場などの使用区分等を見直し、公園内での賑わい創出を目的に、フリーマーケット実施やキッチンカーの展開が可能に



みんなで作る。一人ひとりが笑顔の枚方！！～ひらかた万笑！～

「スポーツ・健康」を市の政策の中心に！笑顔のまちを実現へ！



思わず歩きたくなる、駆け出したくなる、暮らすだけで健康になる、笑顔の枚方をみんなで作っていきませんか？

ノルディックウォーキングによる健康づくり、歩道の拡幅、バリアフリー化など市役所の各部署では数多くの様々なスポーツ・健康に関わる取り組みをバラバラに行っています。これらを1つのビジョンで束ねることで、大きな社会変革を起こしていきたいと考えています。



「スポーツ」で体を健康にし、個人を成長させ、そして人と出会う。生きていると実感できる。そのような文化としての「スポーツ」政策が、今この成熟化した枚方市には必要です。



**ばんしょう** 「スポーツ」の真の価値、市全体におよぼす影響は計り知れないことを踏まえ、本市のあらゆる施策を考えるうえで、スポーツの視点が絶対に必要だと私は考えていますが、スポーツ振興を担当する副市長の見解は？

**副市長答弁** 私自身、市民のニーズが多様化し、スポーツに求められる役割は年々増えていると感じている。

スポーツを重要な施策の一つとしてとらえて、健康づくりや青少年の育成、観光施策などの取り組みを進めることで、まちの魅力の向上や地域活性化を実現していきたい。



不登校児童・生徒への支援について

少しずつでもつながりが持てるまち、一人ひとりが自尊心・自己肯定感がもてる社会を、みんな考えていきたい。

私としては、不登校になっても胸を張ってまちを歩いていいんだと思えるよう、これまで総掛かりで児童生徒そして保護者を支援してほしいと訴えてきました。



支援の取り組みとともに、学校も変わらなくてはならないことがありますし、社会まるごとで変わらなければ、私たちの社会の未来はどんどん狭まっていくのではないのでしょうか。少しずつでもつながりが持てるまちになるよう、みんな考えていきたいです。



中学校部活動の地域移行の検討状況



子どもたちの生活を劇的に変え、この社会が大きく変わる契機となりかねない。先を見据えた大きな枠組みの構築を進めてほしい。

**ばんしょう** スポーツ庁と文化庁から地域移行への「総合的なガイドライン(案)」には「令和5～7年度までの3年間で可能な限り早期の実現」とされている。枚方市の現在の状況と今後の取り組みは？

**教育委員会** 関係各課と協議を継続的に実施しており、論点整理を行っている。今後、地域スポーツ団体や学校等の関係者等で構成する協議会を設置し、検討を進めていく。



「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を宣言した市は市民の模範となる取り組みを！

長期的な視点で、コスト意識も持って、今すぐに取り組み開始を！

市長は「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を宣言しましたが、掛け声だけで、具体的に何をどうすれば実現するのか、未だに示されていません。直近では、電気ガス料金が高騰しており、省エネは緊急の課題とも考えねばなりません。



**ばんしょう** 脱炭素化に向け、早急に実効性を伴った体制をつくり、様々な部局が連携して進めて行くべきだと私は考えるが、市長の見解は？

**市長答弁** 今、取り組むべき課題であり、市のすべての部局が長期的な地球温暖化対策の視点を持って施策を進める必要があると考えている。